

(5) 予測結果

① ごみ処理施設の稼働

ごみ処理施設の稼働による振動の予測結果を表 6-5-26 に示す。

表 6-5-26 施設の稼働による複合影響の振動予測結果（振動レベル L_{10} ）

単位：dB

| 予測地点 | 時間帯 | 現況値 | 寄与値 | 予測結果 |
|--------------|-----|------------|----------------|---------------|
| | | (バックグラウンド) | (施設の稼働に起因する振動) | (現況値と寄与値の合成値) |
| 敷地境界 (No.1) | 昼間 | 30 | 26.7 | 31.7 |
| | 夜間 | 30 | —※ | 30.0 |
| 敷地境界東 (No.7) | 昼間 | 30 | 54.6 | 54.6 |
| | 夜間 | 30 | 18.5 | 30.3 |

※振動の伝搬計算の結果、振動が予測地点まで到達しない結果となった。

② 最終処分場の稼働

最終処分場の稼働による振動予測結果を表 6-5-27 に示す。

表 6-5-27 施設の稼働による振動予測結果（振動レベル L_{10} ）

単位：dB

| 対象 | 予測地点 | 時間帯 | 現況値 | 寄与値 | 予測結果 |
|----|--------------|-----|------------|----------------|---------------|
| | | | (バックグラウンド) | (施設の稼働に起因する振動) | (現況値と寄与値の合成値) |
| A案 | 敷地境界 (No.1) | 昼間 | 30 | 14.9 | 30.1 |
| | 敷地境界東 (No.7) | 昼間 | 30 | 27.3 | 31.9 |
| C案 | 敷地境界 (No.1) | 昼間 | 30 | 8.6 | 30.0 |
| | 敷地境界東 (No.7) | 昼間 | 30 | 28.7 | 32.4 |

③ 施設稼働の複合影響

ごみ処理施設及び最終処分場の稼働による振動の複合影響の予測結果を表 6-5-28 に示す。

複合影響については、両施設が同じ時間帯に稼働する昼間の時間帯を対象とした。

表 6-5-28 施設の稼働による複合影響の振動予測結果（振動レベル L_{10} ）

単位：dB

| 最終処分場条件 | 予測地点 | 時間帯 | 現況値 | 寄与値 | | 予測結果 |
|---------|--------------|-----|------------|--------|-------|---------------|
| | | | (バックグラウンド) | ごみ処理施設 | 最終処分場 | (現況値と寄与値の合成値) |
| A案 | 敷地境界 (No.1) | 昼間 | 30 | 26.7 | 14.9 | 31.8 |
| | 敷地境界東 (No.7) | 昼間 | 30 | 54.6 | 27.3 | 54.6 |
| C案 | 敷地境界 (No.1) | 昼間 | 30 | 26.7 | 8.6 | 31.7 |
| | 敷地境界東 (No.7) | 昼間 | 30 | 54.6 | 28.7 | 54.6 |

④ 最終処分場（第2期）工事時の複合影響

施設の稼働時に発生する最終処分場が2段階整備される場合の建設工事（A案第2期）による影響の予測結果を表6-5-29に示す。

表6-5-29 施設稼働と最終処分場（A案第2期）工事の複合影響の振動予測結果（振動レベル L_{10} ）

単位：dB

| 予測地点 | 時間帯 | 現況値 | 施設稼働振動 | 寄与値 | 予測結果 |
|-----------------|-----|------------|--------|------------------|--------------------------|
| | | (バックグラウンド) | | 最終処分場 (第2期)工事 | (現況値、施設稼働振動 と寄与値の合成値) |
| 敷地境界 (No.1) | 昼間 | 30 | 27.0 | —※ | 31.8 |
| 敷地境界東 (No.7) | 昼間 | 30 | 54.6 | 21.1 | 54.6 |

※振動の伝搬計算の結果、振動が予測地点まで到達しない結果となった。

(6) 環境保全措置の内容と経緯

① 環境配慮事項

事業の計画策定にあたって、あらかじめ環境に配慮することとした事項を表6-5-30に示す。

表6-5-30 環境配慮事項

| 環境配慮事項 | 環境配慮事項の内容 | 効果 | 効果の種類 | | |
|---------|----------------------------------|-----------|-------|-----|----|
| | | | 回避 | 最小化 | 代償 |
| 防振対策の実施 | 主要な振動発生機器は基礎への固定、防振ばねの使用などを実施する。 | 振動の発生量の抑制 | | ○ | |

② 環境保全措置

施設の稼働においては、環境配慮事項を実施することにより振動の影響は、最小化され、振動レベルは低い結果となったことから、環境保全措置は講じない。

(7) 評価方法

① 環境への影響の回避または最小化に係る評価

評価の方法は、調査及び予測の結果並びに検討した環境保全措置の内容を踏まえ、振動に及ぶおそれがある影響が、環境保全措置を講じない場合（保全措置なし）において、実行可能な範囲内のできる限り回避又は最小化、代償されているかを明確にすることとした。

② 環境保全に係る基準または目標との整合性に係る評価

予測結果が、表 6-5-31 に示した環境保全に係る基準または目標との間に整合が図れているかどうかを検討した。

表 6-5-31 環境保全に係る基準または目標

| 環境保全に係る基準または目標 | 備 考 |
|---|---|
| 「振動規制法」(昭和 51 年法律第 64 号)に基づく特定工場等において発生する振動の規制に関する基準（昼間：60dB、夜間：55dB、第一種区域）とした。 | 本予測においては、全地点とも振動規制法に係る規制地域指定の第一種区域に区分される。 |

(8) 評価結果

① 環境への影響の回避または最小化に係る評価

施設の稼働における予測結果と現況値に対する振動レベルの増加量を表 6-5-32 に示す。現況値に対する振動レベルの増加量の最大値は、昼間は 24.6dB、夜間は 0.3dB である。

すべての予測結果において、人が振動を感じ始める大きさである 55dB（参考資料：「新・公害防止の技術と法規 2010〔騒音・振動編〕」2010, (社)産業環境管理協会）以下となることから、施設の稼働に伴う振動を体感することはないと考えられ、影響は最小化されていると評価する。

表 6-5-32 予測結果及び現況値に対する増加量

単位：dB

| 予測地点 | 対象 | | 現況値 | 予測結果 | 増加量 |
|-------------------|------------------|----|------------|---------------|---------|
| | | | (バックグラウンド) | (現況値と寄与値の合成値) | (事業の実施) |
| 敷地境界及び周辺民家 (No.1) | ①ごみ処理施設稼働 | 昼間 | 30 | 31.7 | 1.7 |
| | | 夜間 | 30 | 30.0 | 0.0 |
| | ②最終処分場稼働A案（埋立作業） | 昼間 | 30 | 30.1 | 0.1 |
| | ③最終処分場稼働C案（埋立作業） | 昼間 | 30 | 30.0 | 0.0 |
| | ①+②複合影響 | 昼間 | 30 | 31.8 | 1.8 |
| | ①+③複合影響 | 昼間 | 30 | 31.7 | 1.7 |
| 敷地境界東 (No.7) | ①ごみ処理施設稼働 | 昼間 | 30 | 54.6 | 24.6 |
| | | 夜間 | 30 | 30.3 | 0.3 |
| | ②最終処分場稼働A案（埋立作業） | 昼間 | 30 | 31.9 | 1.9 |
| | ③最終処分場稼働C案（埋立作業） | 昼間 | 30 | 32.4 | 2.4 |
| | ①+②複合影響 | 昼間 | 30 | 54.6 | 24.6 |
| | ①+③複合影響 | 昼間 | 30 | 54.6 | 24.6 |
| | 最終処分場建設A案（第2期） | 昼間 | 30 | 54.6 | 24.6 |

② 環境保全に係る基準または目標との整合性に係る評価

施設の稼働による振動評価結果を表 6-5-33 に示す。

予測結果は、全て環境保全目標を満たす結果となっている。

以上のことから、環境保全に関する基準又は目標との整合性は図られている。

表 6-5-33 施設の稼働に係る振動評価結果

単位：dB

| 予測地点 | 対象 | | 予測結果 | 環境保全に係る基準または目標 | 評価 |
|--------------------------|------------------|----|------|----------------|----|
| 敷地境界及び 周辺民家 (No.1) | ①ごみ処理施設稼働 | 昼間 | 31.7 | 60 | ○ |
| | | 夜間 | 30.0 | 55 | ○ |
| | ②最終処分場稼働A案（埋立作業） | 昼間 | 30.1 | 60 | ○ |
| | ③最終処分場稼働C案（埋立作業） | 昼間 | 30.0 | 60 | ○ |
| | ①+②複合影響 | 昼間 | 31.8 | 60 | ○ |
| | ①+③複合影響 | 昼間 | 31.7 | 60 | ○ |
| | 最終処分場建設A案（第2期） | 昼間 | 31.8 | 60 | ○ |
| 敷地 境界東 (No.7) | ①ごみ処理施設稼働 | 昼間 | 54.6 | 60 | ○ |
| | | 夜間 | 30.3 | 55 | ○ |
| | ②最終処分場稼働A案（埋立作業） | 昼間 | 31.9 | 60 | ○ |
| | ③最終処分場稼働C案（埋立作業） | 昼間 | 32.4 | 60 | ○ |
| | ①+②複合影響 | 昼間 | 54.6 | 60 | ○ |
| | ①+③複合影響 | 昼間 | 54.6 | 60 | ○ |
| | 最終処分場建設A案（第2期） | 昼間 | 54.6 | 60 | ○ |

備考) ○は環境保全に係る基準または目標に適合

4) 廃棄物運搬車両等の走行による振動の影響

(1) 予測項目

予測項目は、廃棄物運搬車両等の走行による振動の影響（振動レベル）とした。

また、最終処分場の建設が二段階整備される場合において、第2期の建設工事はごみ処理施設、最終処分場及び地域振興施設の稼働時に行われることとなる。そのため施設の稼働時に第2期建設工事に伴う資機材運搬車両の走行に伴う影響が重なる場合の振動の影響（振動レベル）についても予測項目とした。

(2) 予測地域及び地点

予測地域は、「廃棄物運搬車両等の走行による騒音」と同じとした。

(3) 予測対象時期

予測対象時期は、「廃棄物運搬車両等の走行による騒音」と同じく、廃棄物の搬入量が安定し、施設が定常的に稼働する時点とした。

なお、地域振興施設の供用に伴う交通量は、10時～21時に発生するが、振動における時間区分は、昼間が8時～19時、夜間が19時～翌8時であり、夜間の時間区分にも発生交通量があることから、振動においては、昼間及び夜間について予測を行った。

(4) 予測方法

① 予測手順

廃棄物運搬車両等の走行による振動は、「資機材の運搬車両の走行による振動」と同様の手順で予測する。

廃棄物運搬車両等の走行による振動は、「一般車両」のみが走行した場合の振動レベルと「一般車両＋廃棄物運搬車両等」が走行した場合の振動レベルの差を「廃棄物運搬車両等」の走行による振動レベルの増加量として予測し、影響を検討する。

② 予測式

「資機材の運搬車両の走行による振動」と同じとした。

③ 予測条件の設定

(ア) 交通量

予測に用いる交通量は、「廃棄物運搬車両等の走行による騒音」と同じとした。

(イ) 走行速度

予測に用いる廃棄物運搬車両等の平均走行速度は、「廃棄物運搬車両等の走行による騒音」と同じとした。

(ウ) 道路条件

予測対象道路の道路条件は、「廃棄物運搬車両等の走行による騒音」と同じとした。

(エ) バックグラウンド（現況の振動）

「資機材の運搬車両の走行による振動」と同じとした。

(5) 予測結果

① 施設稼働時の影響

廃棄物運搬車両等の走行による振動予測結果を表 6-5-34 に示す。

表 6-5-34 廃棄物運搬車両等の走行による振動予測結果

単位：dB

| 予測地点 | 予測対象 | 時間 区分 | 現況値 | 予測結果 | 増加レベル |
|-------------------------------|----------------------|----------|--------|-----------------|------------|
| | | | (一般車両) | (一般車両+廃棄物運搬車両等) | (廃棄物運搬車両等) |
| 県道 鶯宿中道線 【東側】 (No.2) | ①ごみ処理施設の供用 | 昼間 | 42.9 | 46.8 | 3.9 |
| | | 夜間 | 32.1 | 32.2 | 0.1 |
| | ②最終処分場の供用 (A案=C案) | 昼間 | 42.9 | 43.5 | 0.6 |
| | | 夜間 | 32.1 | 32.1 | 0.0 |
| | ③地域振興施設の供用 | 昼間 | 42.9 | 43.0 | 0.1 |
| | | 夜間 | 32.1 | 32.2 | 0.1 |
| ①+②+③ 複合影響 | 昼間 | 42.9 | 47.0 | 4.1 | |
| | 夜間 | 32.1 | 32.2 | 0.1 | |
| 県道 鶯宿中道線 【中央】 (No.3) | ①ごみ処理施設の供用 | 昼間 | 35.9 | 42.7 | 6.8 |
| | | 夜間 | 30.7 | 30.7 | 0.0 |
| | ②最終処分場の供用 (A案=C案) | 昼間 | 35.9 | 37.3 | 1.4 |
| | | 夜間 | 30.7 | 30.7 | 0.0 |
| | ③地域振興施設の供用 | 昼間 | 35.9 | 36.2 | 0.3 |
| | | 夜間 | 30.7 | 30.8 | 0.1 |
| ①+②+③ 複合影響 | 昼間 | 35.9 | 43.0 | 7.1 | |
| | 夜間 | 30.7 | 30.8 | 0.1 | |
| 県道 鶯宿中道線 【西側】 (No.4) | ①ごみ処理施設の供用 | 昼間 | 30.7 | 40.1 | 9.4 |
| | | 夜間 | 30.0 | 30.1 | 0.1 |
| | ②最終処分場の供用 (A案=C案) | 昼間 | 30.7 | 33.4 | 2.7 |
| | | 夜間 | 30.0 | 30.0 | 0.0 |
| | ③地域振興施設の供用 | 昼間 | 30.7 | 31.2 | 0.5 |
| | | 夜間 | 30.0 | 30.1 | 0.1 |
| ①+②+③ 複合影響 | 昼間 | 30.7 | 40.4 | 9.7 | |
| | 夜間 | 30.0 | 30.2 | 0.2 | |
| 一般国道 358号 (No.5) | ①ごみ処理施設の供用 | 昼間 | 46.0 | 48.0 | 2.0 |
| | | 夜間 | 38.3 | 38.3 | 0.0 |
| | ②最終処分場の供用 (A案=C案) | 昼間 | 46.0 | 46.2 | 0.2 |
| | | 夜間 | 38.3 | 38.3 | 0.0 |
| | ③地域振興施設の供用 | 昼間 | 46.0 | 46.0 | 0.0 |
| | | 夜間 | 38.3 | 38.3 | 0.0 |
| ①+②+③ 複合影響 | 昼間 | 46.0 | 48.2 | 2.2 | |
| | 夜間 | 38.3 | 38.4 | 0.1 | |

備考) No.6 地点の道路に廃棄物運搬は通行しない。

② 最終処分場（第2期）建設工事の影響

施設の稼働時に最終処分場（第2期）建設工事に伴う資機材運搬車両が走行した場合の振動予測結果を表6-5-35に示す。

表6-5-35 最終処分場（第2期）建設工事に伴う資機材運搬車両の走行による振動予測結果
単位：dB

| 予測地点 | 工事中 ルート条件 | 時間 区分 | 施設稼働時 | 予測結果 | 増加レベル |
|-------------------------------|--------------|----------|---------------------|-----------------------------------|-----------|
| | | | (一般車両+廃棄物 運搬車両等) | (一般車両+廃棄物運搬 車両等) + 資機材運搬車 両 | (資機材運搬車両) |
| 県道 鶯宿中道線 【東側】 (No.2) | 分散ルート | 昼間 | 47.0 | 47.7 | 0.7 |
| | | 夜間 | 32.2 | 32.2 | 0.0 |
| 県道 鶯宿中道線 【中央】 (No.3) | 分散ルート | 昼間 | 43.0 | 43.8 | 0.8 |
| | | 夜間 | 30.8 | 30.8 | 0.0 |
| 県道 鶯宿中道線 【西側】 (No.4) | 集中ルート | 昼間 | 40.4 | 41.0 | 0.6 |
| | | 夜間 | 30.2 | 30.2 | 0.0 |
| | 分散ルート | 昼間 | 40.4 | 40.7 | 0.3 |
| | | 夜間 | 30.2 | 30.2 | 0.0 |
| 一般国道 358号 (No.5) | 集中ルート | 昼間 | 48.2 | 48.5 | 0.3 |
| | | 夜間 | 38.4 | 38.4 | 0.0 |
| | 分散ルート | 昼間 | 48.2 | 48.4 | 0.2 |
| | | 夜間 | 38.4 | 38.4 | 0.0 |

備考) No.6 地点の道路に廃棄物運搬は通行しない。

(6) 環境保全措置の内容と経緯

① 環境配慮事項

事業の計画策定にあたって、あらかじめ環境に配慮することとした事項を表 6-5-36 に示す。

表 6-5-36 環境配慮事項

| 環境配慮事項 | 環境配慮事項の内容 | 効果 | 効果の種類 | | |
|---------------|--|------------|-------|-----|----|
| | | | 回避 | 最小化 | 代償 |
| 廃棄物運搬車両の集中の回避 | 廃棄物運搬車両の運行台数・時間の集中を回避することによって車両振動の発生を抑制する。 | 振動の発生の集中抑制 | | ○ | |

② 環境保全措置

廃棄物運搬車両等の走行においては、環境配慮事項を実施することにより振動の影響は、最小化され、振動レベルは低い結果となったことから、環境保全措置は講じない。

(7) 評価方法

① 環境への影響の回避または最小化に係る評価

評価の方法は、調査及び予測の結果並びに検討した環境保全措置の内容を踏まえ、振動に及ぶおそれがある影響が、環境保全措置を講じない場合（保全措置なし）において、実行可能な範囲内でできる限り回避又は最小化、代償されているかを明確にすることとした。

② 環境保全に係る基準または目標との整合性に係る評価

予測結果が、表 6-5-37 に示した環境保全に係る基準または目標との間に整合が図れているかどうかを検討した。

表 6-5-37 環境保全に係る基準または目標

| 環境保全に係る基準または目標 | 備 考 |
|---|---|
| 「振動規制法」(昭和 51 年法律第 64 号)に基づく道路交通振動の限度(要請限度)である昼間 65dB、夜間 60dB (第一種区域)とした。 | 本予測においては、全地点とも振動規制法に係る規制地域指定の第一種区域に区分される。 |

(8) 評価結果

① 環境への影響の回避または最小化に係る評価

廃棄物運搬車両等の走行による振動予測結果と現況値に対する振動レベルの増加量を表 6-5-38 に示す。

現況値に対する振動レベルの増加量の最大値は、昼間は+9.7dB、夜間は+0.2dB であり、全ての予測結果は、人が振動を感じ始める大きさである 55dB（参考資料：「新・公害防止の技術と法規 2010〔騒音・振動編〕」2010, (社)産業環境管理協会）以下となっている。

また、施設の稼働時に最終処分場（A 案第 2 期）建設工事に伴う資機材運搬車両が走行した場合の振動予測結果を表 6-5-39 に示す。

現況値に対する振動レベルの増加量の最大値は、昼間は+10.3dB、夜間は+0.2dB であり、全ての予測結果は、人が振動を感じ始める大きさである 55dB（参考資料：「新・公害防止の技術と法規 2010〔騒音・振動編〕」2010, (社)産業環境管理協会）以下となっている。

したがって、廃棄物運搬車両等の走行による影響は最小化される。

表 6-5-38 廃棄物運搬車両等の走行による振動予測結果

単位：dB

| 予測地点 | 予測対象 | 時間区分 | 現況値 | 予測結果 | 増加レベル |
|-------------------------------|------------------------|------|--------|-----------------|------------|
| | | | (一般車両) | (一般車両+廃棄物運搬車両等) | (廃棄物運搬車両等) |
| 県道 鶯宿中道線 【東側】 (No.2) | ①ごみ処理施設の供用 | 昼間 | 42.9 | 46.8 | 3.9 |
| | | 夜間 | 32.1 | 32.2 | 0.1 |
| | ②最終処分場の供用 (A 案=C 案) | 昼間 | 42.9 | 43.5 | 0.6 |
| | | 夜間 | 32.1 | 32.1 | 0.0 |
| | ③地域振興施設の供用 | 昼間 | 42.9 | 43.0 | 0.1 |
| | | 夜間 | 32.1 | 32.2 | 0.1 |
| ①+②+③ 複合影響 | 昼間 | 42.9 | 47.0 | 4.1 | |
| | 夜間 | 32.1 | 32.2 | 0.1 | |
| 県道 鶯宿中道線 【中央】 (No.3) | ①ごみ処理施設の供用 | 昼間 | 35.9 | 42.7 | 6.8 |
| | | 夜間 | 30.7 | 30.7 | 0.0 |
| | ②最終処分場の供用 (A 案=C 案) | 昼間 | 35.9 | 37.3 | 1.4 |
| | | 夜間 | 30.7 | 30.7 | 0.0 |
| | ③地域振興施設の供用 | 昼間 | 35.9 | 36.2 | 0.3 |
| | | 夜間 | 30.7 | 30.8 | 0.1 |
| ①+②+③ 複合影響 | 昼間 | 35.9 | 43.0 | 7.1 | |
| | 夜間 | 30.7 | 30.8 | 0.1 | |
| 県道 鶯宿中道線 【西側】 (No.4) | ①ごみ処理施設の供用 | 昼間 | 30.7 | 40.1 | 9.4 |
| | | 夜間 | 30.0 | 30.1 | 0.1 |
| | ②最終処分場の供用 (A 案=C 案) | 昼間 | 30.7 | 33.4 | 2.7 |
| | | 夜間 | 30.0 | 30.0 | 0.0 |
| | ③地域振興施設の供用 | 昼間 | 30.7 | 31.2 | 0.5 |
| | | 夜間 | 30.0 | 30.1 | 0.1 |
| ①+②+③ 複合影響 | 昼間 | 30.7 | 40.4 | 9.7 | |
| | 夜間 | 30.0 | 30.2 | 0.2 | |
| 一般国道 358 号 (No.5) | ①ごみ処理施設の供用 | 昼間 | 46.0 | 48.0 | 2.0 |
| | | 夜間 | 38.3 | 38.3 | 0.0 |
| | ②最終処分場の供用 (A 案=C 案) | 昼間 | 46.0 | 46.2 | 0.2 |
| | | 夜間 | 38.3 | 38.3 | 0.0 |
| | ③地域振興施設の供用 | 昼間 | 46.0 | 46.0 | 0.0 |
| | | 夜間 | 38.3 | 38.3 | 0.0 |
| ①+②+③ 複合影響 | 昼間 | 46.0 | 48.2 | 2.2 | |
| | 夜間 | 38.3 | 38.4 | 0.1 | |

備考) No.6 地点の道路に廃棄物運搬車両は通行しない。

表 6-5-39 最終処分場（A 案第 2 期）建設工事に伴う資機材運搬車両の走行による振動予測結果
単位：dB

| 予測地点 | 工事中 ルート条件 | 時間 区分 | 現況値 | 予測結果 | 増加レベル |
|-------------------------------|--------------|----------|--------|-----------------------------------|-----------|
| | | | (一般車両) | (一般車両+廃棄物運搬 車両等) + 資機材運搬車 両 | (資機材運搬車両) |
| 県道 鶯宿中道線 【東側】 (No.2) | 分散ルート | 昼間 | 42.9 | 47.7 | 4.8 |
| | | 夜間 | 32.1 | 32.2 | 0.1 |
| 県道 鶯宿中道線 【中央】 (No.3) | 分散ルート | 昼間 | 35.9 | 43.8 | 7.9 |
| | | 夜間 | 30.7 | 30.8 | 0.1 |
| 県道 鶯宿中道線 【西側】 (No.4) | 集中ルート | 昼間 | 30.7 | 41.0 | 10.3 |
| | | 夜間 | 30.0 | 30.2 | 0.2 |
| | 分散ルート | 昼間 | 30.7 | 40.7 | 10.0 |
| | | 夜間 | 30.0 | 30.2 | 0.2 |
| 一般国道 358 号 (No.5) | 集中ルート | 昼間 | 46.0 | 48.5 | 2.5 |
| | | 夜間 | 38.3 | 38.4 | 0.1 |
| | 分散ルート | 昼間 | 46.0 | 48.4 | 2.4 |
| | | 夜間 | 38.3 | 38.4 | 0.1 |

備考) No. 6 地点の道路に廃棄物運搬車両は通行しない。

② 環境保全に係る基準または目標との整合性に係る評価

振動レベルが最大となる3施設の供用における振動評価結果を表6-5-40に示す。

また、施設の稼働時に最終処分場（A案第2期）建設工事に伴う資機材運搬車両が走行した場合の振動評価結果を表6-5-41に示す。

全ての予測結果は、環境保全目標を満たす結果となっている。

以上のことから、環境保全に関する基準又は目標との整合性は図られているものと評価する。

表 6-5-40 廃棄物運搬車両等の走行に係る振動評価結果

単位：dB

| 予測地点 | 予測対象 | 時間区分 | 予測結果 | 環境保全に係る基準または目標 | 評価 |
|-------------------------------|----------------------|------|------|----------------|----|
| 県道 鶯宿中道線 【東側】 (No.2) | ①ごみ処理施設の供用 | 昼間 | 46.8 | 65 | ○ |
| | | 夜間 | 32.2 | 60 | ○ |
| | ②最終処分場の供用 (A案=C案) | 昼間 | 43.5 | 65 | ○ |
| | | 夜間 | 32.1 | 60 | ○ |
| | ③地域振興施設の供用 | 昼間 | 43.0 | 65 | ○ |
| | | 夜間 | 32.2 | 60 | ○ |
| ①+②+③ 複合影響 | 昼間 | 47.0 | 65 | ○ | |
| | 夜間 | 32.2 | 60 | ○ | |
| 県道 鶯宿中道線 【中央】 (No.3) | ①ごみ処理施設の供用 | 昼間 | 42.7 | 65 | ○ |
| | | 夜間 | 30.7 | 60 | ○ |
| | ②最終処分場の供用 (A案=C案) | 昼間 | 37.3 | 65 | ○ |
| | | 夜間 | 30.7 | 60 | ○ |
| | ③地域振興施設の供用 | 昼間 | 36.2 | 65 | ○ |
| | | 夜間 | 30.8 | 60 | ○ |
| ①+②+③ 複合影響 | 昼間 | 43.0 | 65 | ○ | |
| | 夜間 | 30.8 | 60 | ○ | |
| 県道 鶯宿中道線 【西側】 (No.4) | ①ごみ処理施設の供用 | 昼間 | 40.1 | 65 | ○ |
| | | 夜間 | 30.1 | 60 | ○ |
| | ②最終処分場の供用 (A案=C案) | 昼間 | 33.4 | 65 | ○ |
| | | 夜間 | 30.0 | 60 | ○ |
| | ③地域振興施設の供用 | 昼間 | 31.2 | 65 | ○ |
| | | 夜間 | 30.1 | 60 | ○ |
| ①+②+③ 複合影響 | 昼間 | 40.4 | 65 | ○ | |
| | 夜間 | 30.2 | 60 | ○ | |
| 一般国道 358号 (No.5) | ①ごみ処理施設の供用 | 昼間 | 48.0 | 65 | ○ |
| | | 夜間 | 38.3 | 60 | ○ |
| | ②最終処分場の供用 (A案=C案) | 昼間 | 46.2 | 65 | ○ |
| | | 夜間 | 38.3 | 60 | ○ |
| | ③地域振興施設の供用 | 昼間 | 46.0 | 65 | ○ |
| | | 夜間 | 38.3 | 60 | ○ |
| ①+②+③ 複合影響 | 昼間 | 48.2 | 65 | ○ | |
| | 夜間 | 38.4 | 60 | ○ | |

備考) ○は環境保全に係る基準または目標に適合

No. 6 地点の道路に廃棄物運搬車両は通行しない。

表 6-5-41 最終処分場（A 案第 2 期）建設工事時の振動に係る評価結果

単位：dB

| 予測地点 | 工事中 ルート条件 | 時間 区分 | 予測結果 | 環境保全に係る基 準または目標 | 評価 |
|-------------------------------|--------------|----------|------|--------------------|----|
| 県道 鶯宿中道線 【東側】 (No.2) | 分散ルート | 昼間 | 47.7 | 65 | ○ |
| | | 夜間 | 32.2 | 60 | ○ |
| 県道 鶯宿中道線 【中央】 (No.3) | 分散ルート | 昼間 | 43.8 | 65 | ○ |
| | | 夜間 | 30.8 | 60 | ○ |
| 県道 鶯宿中道線 【西側】 (No.4) | 集中ルート | 昼間 | 41.0 | 65 | ○ |
| | | 夜間 | 30.2 | 60 | ○ |
| | 分散ルート | 昼間 | 40.7 | 65 | ○ |
| | | 夜間 | 30.2 | 60 | ○ |
| 一般国道 358 号 (No.5) | 集中ルート | 昼間 | 48.5 | 65 | ○ |
| | | 夜間 | 38.4 | 60 | ○ |
| | 分散ルート | 昼間 | 48.4 | 65 | ○ |
| | | 夜間 | 38.4 | 60 | ○ |

備考) No. 6 地点の道路に廃棄物運搬車両は通行しない。